

実務利用検討ワーキンググループ

会長：町田 聡(パシフィックコンサルタンツ株) 幹事：黒台昌弘(株間組、E-mail:kurodai@hazama.co.jp)

実務利用検討WGリーダー：熊谷樹一郎(摂南大学、E-mail:kumagai@civ.setsunan.ac.jp)

実務利用検討WGでは、リモートセンシングデータが一般に使えるようになって既に35年以上を経過しているにもかかわらず、国土マネジメントや国土防災に関係した行政機関における管理業務での利用がそれほど広まっていない現状を振り返り、実務担当者の視点に立ってリモートセンシングデータの利用しやすい環境の整備を促進するアプローチを続けています。

これまでに、利用実績のあるエンドユーザの把握を目的として2段階にわたった実態調査を実施するとともに、行政機関での通常の業務内容を調査し、リモートセンシングデータの実務利用に向けた検討を行ってきました。本ポスターでは、これまで活動経緯とその後の展開について、ご報告します。

活動の流れ

フェーズ1: 第1次調査

国土交通省の事務所を対象とした利用実態のアンケート調査

フェーズ2: 第2次調査

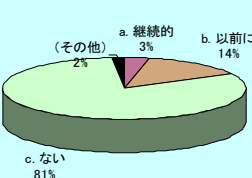
利用実績のある事務所を対象に、ヒアリング調査

フェーズ3: 問題点抽出・課題整理

衛星データの実務利用における長所・短所の見直し・課題整理

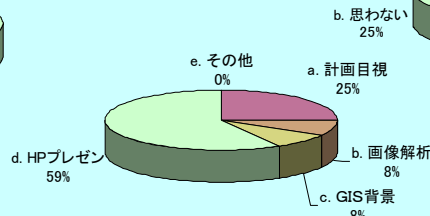
これまでの調査結果(第1次調査)

質問1. これまでに、業務の中で衛星画像を利用したことがありますか？



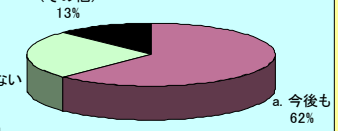
質問2. これまでの衛星画像の利用目的を教えてください。

a. 計画策定時に現状を目で確認した
b. 画像解析処理を行い、土地利用や植生状況の変遷を調べた
c. GIS等の背景情報として利用した
d. HPやパンフレットなどプレゼン用の素材として利用した
e. その他()



質問3. 1の設問に「b. 以前使ったことがある」と回答された方にご質問いたします。今後も衛星画像を利用しようと考えますか。

a. 今後も利用したい
b. 再度利用したいとは思わない



課題の整理

期間

短期

- 技術資料の作成
- コンサルタントエンジニアへのアンケート調査
- 利用の手引き書の作成

- 航空写真との代替可能性調査
- 仕様書案の作成
- 積算要領の作成
- 利用対象ごとのデータ提供方法の検討
- 技術資料の広報
- 建設コンサルタント協会・財団への働きかけ
- 土木学会などとのコラボレーション
- 災害直後などのデータ取得率調査
- 事務所、理解あるユーザとの実証実験
- 講習会の開催

長期

- 災害調査報告・提言
- 継続活用モデルの作成
- 標準化手法・手順の提案
- 小中学生・高校生への普及・啓発活動

実務利用へのアプローチ

課題の解決を目的として定常業務の実際を知ろう

【実務利用の方向性①】
既存技術・現行法の補完技術として実務利用を促進

衛星データ活用ガイドライン(仮称)

定常業務の勉強会の実施
◇浸水想定区域図作成業務
◇河川水辺の国勢調査

- 仕様書、基準書、手引きなどのマニュアルに沿った業務遂行
- 空中写真などの既存技術に代替利用する余地が少ない

【実務利用の方向性②】
学会・WGとして
オープンライズした衛星データ活用の考え方・付加価値を公に